



ひとひと 女・男 ひろば

<第19回>

子供を産み、育てる幸福を 実感できる社会へ

内閣府が平成14年6月に行った「国民生活に関する世論調査」では、子育てを「楽しいと感じることが多い」と答えた割合が42.9%でした。平成11年2月の調査での54.9%と比べると、子育てに負担を感じている人が増えていることが浮き彫りになっています。

また「子育てをつらい」と感じる理由を性別で見ると、男性では「教育にお金がかかること」をあげた割合が高いのに対して、女性では「子供の相手は体力や根気がいること」「自分の時間がなくなる」という、直接子育てに関係する理由が多くなっています。

働く女性にとって、結婚や出産、子育てと仕事の両立は、まだまだ難しい状況にあります。厚生労働省の調査では、女性の出産による退職は22.1%にのぼり、再び働こうとしても、パートタイマーなどの非正規労働に限定されることが多いようです。子育ての負担が女性に集中していることの表れなのでしょうか。

新潟薬科大学応用生命科学部学園祭

『新薬祭』にお出かけを

開催日 10月25日(金)~27日(日)

開催時間は10月15日号でお知らせします。

ところ 新潟薬科大学新津キャンパス(東島)

内容 研究内容の展示、模擬実験、演奏会、屋台など(3日間とも先着60名にプレゼント有り)

くわしくは薬科大ホームページをご覧ください。

<http://www.niigatayakudai.jp/>

問い合わせ 新潟薬科大学応用生命科学部事務室(☎25-5000)へ。

立ち上がれ！バイオリサーチパーク⑩

新潟薬科大学応用生命科学部

教授陣紹介

動物・細胞生物工学研究室助教

市川進 一 さん



ところで、それが話題になっていました。

高校の先生の薦めもあり、将来は遺伝子工学の研究をしたいと思うようになりました。大学は東京薬科大学を卒業し、その後、東京工業大学の大学院に進みました。

— これまでどのような研究をされてきましたか？

大学卒業後、どうしても遺伝子工学を学びたいと思い、米国のペンシルバニア大学へ移り、遺伝子組み換えの技術を学びました。帰国してからは、名古屋

大学で助手を勤めた後、理化学研究所、エイジーン研究所で研究を行いました。一年半ほど前に縁があってジーンケア研究所というバイオベンチャー企業の創設に参加し、貴重な体験をすることができました。過去十年ほどは、細胞に存在する、糖脂質という、働きの分からない物質の研究を行ってきました。

遺伝子工学を用いて、糖脂質を持たないマウスをつくることに成功しているので、このマウスを使って働きを明らかにしたいと考えています。また、ここ二年ほどは老化に関する研究も行っています。

— 研究のアピールポイントは？
動物の遺伝子を、自由に改変する技術を持っているので、こ

の技術を使って、医薬品開発を行いたいと考えています。現在は老化に最も興味を持っていて、老化予防薬を作るのが夢です。

— 市民へのメッセージをお願いします。
これまで新潟には、ほとんど訪れたことがありませんでした。現在は新潟市に住んでいますが、大変住みやすいところで、満足しています。大学には私同様、他県から多くの学生が来ているので、これから冬にかけては、生活面で不自由することも多いと思いますので、いろいろと助けていただけたらと考えています。

身近な自然 豊かなカルチャー

花と遺跡のふるさと公園

新津市美術館

☎0250-25-1301
<http://www.city.niitsu.niigata.jp/>

新潟県埋蔵文化財センター

☎0250-23-1142
<http://www1.ocn.ne.jp/~n-maibun/>

新潟県立植物園

☎0250-24-6465
<http://botanical.greenerly-niigata.or.jp/>